

## 波力による円筒体の挙動に関する研究

岐阜大学 正会員 非会員 増田重臣 ○安田孝志

## 要旨

前報<sup>(1)</sup>で述べた2自由度倒立振子に波力を作用させることにより生じる円筒体の挙動を記述し、Morison式による波力と比較し

## 緒言

波力を決定する方法は、従来、防波堤などのように波の慢性的に越す場合には、構造物に直接取り付け、実測したり、Minikin式、広井式、Froude-Kriloff式などにて決定されている。円筒体などにて構成されている構造物の慢性的の他に摩擦力が重要となる場合には、Morison式によて決定されている。そして、円柱に作用する波力を概しては、既に多くの研究が行われている。そして、それらの多くは Airyの線形波、Stokesの2次近似波式より速度、加速度成分を導き、 $C_D$ 、 $C_H$ を仮定し、これらと Morison式に代入することにより、波力を決定している。しかし、この速度、加速度は、流体場に円柱が存在しないとして、完全流体の仮定よりボテンシャル関数を求め、それより得られたものであるため、円柱の存在による影響を無視したものである。また、 $C_H$ 、 $C_D$ に関しては、以下のように展開される。波力諸量と波力の関係は、 $f = f(u, a, g, \rho, \mu, D)$

$$\text{次元解析にて, } \frac{f}{\frac{1}{2} \rho u^2 D} = U_I \left( \frac{uD}{L}, \frac{aD}{u^2}, \frac{gD}{u^2} \right) = U_{II}(Re, I, Fr)$$

一方、Morison式を無次元化すると、

$$\frac{f}{\frac{1}{2} \rho u^2 D} = C_H \frac{\pi}{2} \frac{Da}{u^2} + C_D \frac{u|u|}{u^2}$$

よって、

$$U_{II}(Re, I, Fr) = C_H \frac{\pi}{2} Da/u^2 + C_D u|u|/u^2$$

$$C_H = C_H(Re, I, Fr) = C_H(z, t)$$

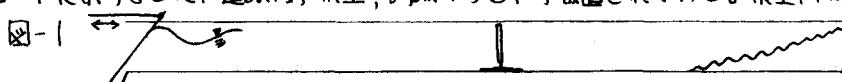
$$C_D = C_D(Re, I, Fr) = C_D(z, t)$$

故に、 $C_H$ 、 $C_D$ は、因子関係においては定数でなく、Bretschneider<sup>(5)</sup>によると、 $C_H(z, t)$ 、 $C_D(z, t)$ として与える読みがなされたが、現実には $C_H$ 、 $C_D$ を平均させることにより、定数として用いられている。こうした点などに Morison 式に問題があると考えられる。前報で述べたよう自視点で円筒体の挙動を決定していくに、厳密に理論展開され、それらを反映した実験的方法によつて波力を決定し、その因子関係を明らかにすることが必要と考えられる。そのような自視点にて、本実験が施された。

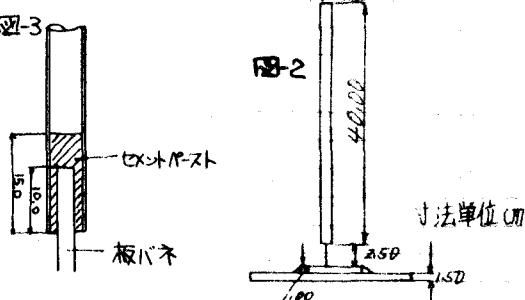
## 実験

## 実験装置

幅30cm、深さ45cm、長さ30mの両面ガラス張りの2次元造波水槽で、造波装置はフランジ型造波機である。図-1に示すように、造波機、模型、消波マウンドが設置されている。模型円筒体は、



長さ40cm、外径1.8cm、内径1.3cmの硬質塩化ビニール管で、図-2に示すように厚さ1.5cm、横25cm、縦30cmの鉄板上に、更に厚さ1cm、横6cm、縦15cmの鉄板を酸素溶接で接着させ、これにボルト盤で直径1.9cmの穴を開け、その穴に模型を固定した。板バネの固定は、図-3に示すようにセメントペーストにより完全拘束である。strain-gageは、耐水性のあるベーカラ1トゲージを使用した。ゲージ諸量は、抵抗120Ω、抵抗偏差±0.3%以下、ゲージ率( $k_s$ )204で、コーティング剤の被膜で防水処理をした。記録は、共和電業製DPM-AT型strain-meterと電磁オシロにて、感光紙上に記録した。実験は、水深30cmの水槽に周期2sec、波長328cm、波高12.0cmの波を発生させ、それによって生じる円筒体の挙動を記録した。そして、減衰係数を決定するため、水深30cmの静水中で円筒体の真実自由振動を記録した。



模型系に対する考察及び実験結果

前報に示した2自由度actual systemに対する1自由度equilibrium systemの運動方程式を更に合理的なものにするため、以下の改良を加えた。付加質量、減衰項に水面の時間的変化による効果を反映させるため、太字形でStokes 2次近似波式にて記述した。

$$I_a = \rho \pi D^3 / 12 \cdot \{(h + X + \gamma(t))^3 - X^3\}$$

$$X = \frac{3\zeta - 6\zeta^2/l^3 - 6I_a/l^3 m_0 + \sqrt{(3\zeta - 6\zeta^2/l^3)^3 - 6I_a/l^3 m_0^2} + 6(l+2\zeta)(6I_a/l^3 m_0 + I_a/EI + 4\zeta l)}{6(l+2\zeta)/l^3} + \frac{6\zeta^2/l^2}{l^3} = 1.49 \text{ cm}$$

$$l = 2.50 \text{ cm}$$

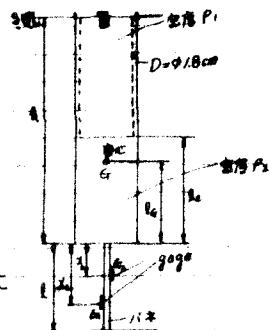
$$\zeta = 13.95 \text{ cm}$$

$$I_a = 11568.94 \text{ cm}^5$$

$$m_0 = 102.54 \text{ (グラム質量)}$$

$$\gamma(t) = \frac{\pi}{2} \cos \omega t + \frac{\pi^2 l^2}{4L} \left( 1 + \frac{3}{2 \sinh^2(kd)} \right) \coth(kd) \cos 2\omega t$$

$$RL(t) = R_3 \cdot \{(h + X + \gamma(t))^3 - X^3\}$$



更に浮力効果を考慮することにより、円筒体の挙動を記述する運動方程式は次のようになる。

$$\{I_o + I_a(t)\}\ddot{\theta} + RL(t)\dot{\theta} + \{k_1 + k_2(t)\}\theta = M(t)$$

$$k_1 = [4EI/l - 12EI X/l^2 + 12EI X^2/l^3 - m_0(l_0 + X)]/l^3$$

$$k_2(t) = \rho \frac{\pi}{4} D^2 (h + \gamma(t)) + \frac{1}{2} (h + \gamma(t)) + X/8$$

### Rの決定

円筒体の減衰自由振動の方程式は、

$$(I_o + I_a)\ddot{\theta} + RL\dot{\theta} + K\theta = 0$$



